

＜台風一過＞あつという間に雨も風も強くなった台風 18 号の通過した翌日（17 日）はまさに快晴で、ずいぶん久しぶりに富士山が姿を見せました。写真は富士山の東に位置するキャンパスから撮ったもので、手前のこんもりとしたタブノキの右奥にビオトープがあります。折を見てビオトープの立地について詳しく紹介しましょう。

ところで、今回の台風によるビオトープの被害は、ガマが倒れている程度に見受けられましたが、よく見ると木によっては実がかなり吹き飛ばされてしまったようです。



↑タブノキ ↑この奥にビオトープ

＜白露＞昔の人たちは四季折々の変化を五感で敏感に受け取ったのでしょうね。“処暑”が過ぎて“秋分”までの 2 週間強が 2 4 節季の“白露（はくろ）”にあたり、朝晩の気温が下がり露の降りるようになる頃というわけです。台風の後めっきりと朝晩が涼しくなり、まさに朝露が一杯降りるようになりました。姿を現す生き物も代わってきたようです。次の 3 葉の写真は台風前のものです。まずは夏の名残のオニヤンマです。「どこにいるの？」というような冴えない写真ですが、オニヤンマが珍しくガマの葉で羽を休めているところです。



＜羽を休めるオニヤンマ＞

2 つ目はビオトープの入り口で見かけたニホントカゲです。枯草の中から這い出してきたのでしょうか、頭には小さなクズを載せています。それにしても金属光沢をしたルリ色の尻尾は目立ちますね。3 つ目はか弱い花を咲かせていたマツヨイグサが今では実を付けてがっしりした姿になった写真です。これを見ると日本に帰化したのも頷けそうです。



＜ニホントカゲ＞

＜京鹿の子、キョウガノコ＞ビオトープへの小さな流れの上流はホタル川と名付けられています、その流れに沿ってシモツケソウが植わっていて花を咲かせていました。ビオトープから出てしまいましたが、折角ですので 6 月の最初に紹介



＜実を付けたマツヨイグサ＞



＜シモツケソウ＞



＜シモツケ＞

したシモツケと比べてみてください。個々の花の形は互いによく似ていますが色はシモツケソウの方がキョウガノコに相応しくあでやかですね。（文と写真：松本正勝）